慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ジョイントセミナー参加報告
Sub Title	Keio-South Florida Joint Seminar
Author	玉田, 圭作(Tamada, Keisaku) 桃生, 朋子(Mono, Tomoko) 大森, 幹真(Omori, Mikimasa)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2011
Jtitle	活動報告書 Vol.5, (2011.) ,p.37- 37
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章：シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20120300-0037

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

10 ジョイントセミナー参加報告
Keio-South Florida Joint Seminar

開催日　2011年12月２－３日
企　画　国際教育研究プログラム
講演者　増田早哉子、玉田圭作、金井将希（脳と進化班）、大森幹真（遺伝と発達班）、桃生朋子（言語と認知班）

2011年12月２日、３日にわたり、南フロリダ大学にて、第３回慶應―南フロリダ大学合同セミナーが清水透南フロリダ大学教授の差配により開催された。

初日は、動物を扱った研究の発表が行われた。冒頭で、南フロリダ大学心理学科長 Michael Brannik 博士及び、渡辺茂拠点リーダーの挨拶があり、続いてハトのフレキシビリティにおける背側視床（Uysal）、家雀の拡散における生理行動的可塑性の役割（Liebl）、ラットにおける幹細胞移植（篠塚）、お昼を挟んで、マウスの絵画弁別と選好（渡辺）とそれぞれの研究発表が行われた。対象動物は鳥類とげっ歯類にまとまっていたが、研究目的や手法は多岐に渡り、動物を使った行動神経研究の幅の広さを感じられるプログラムだった。発表時間は質疑応答を含め一人40分だったが、それぞれ心理学系、生物学系、医学系などバッググランドが異なる発表者と聴衆が活発な議論を交わした。午後の渡辺拠点リーダーの発表の時には、さらに美学系の教員などが加わり計50人弱が集まった。初日は、動物がメインなテーマだったにも関わらず、ヒトを対象にした研究者も活発に議論に参加し、また、慶應の参加者も南フロリダの発表者に積極的に質問していて、研究者間、学問間の垣根を越えた交流が行われた。

２日目は人間を対象にした研究発表が行われ、慶應からは玉田が文脈とマンガの表現形式がマンガの読み方略に与える影響、桃生が中国語話者による第二言語としての日本語の省略構文の獲得、大森が発達障害児に対する画像・音声・言語を組み合わせた支援プログラムの作成とその効果、増田が認知過程と認知内容の言語による自己報告についてそれぞれ発表を行った。各発表者の内容は非常にバラエティに富んでいたが、その根底には人間の認知メカニズムに対する興味が共通してあるように感じられた。そのためフロアからはそれぞれ異なる専門分野にも関わらず多くの質問やコメントが積極的に出され、非常に活発な議論が行われた。質疑応答の時間が終わった休憩時間に質問や議論をしている姿も見られ、参加者の関心の高さが伺われた。また、議論の中で日本とアメリカの文化の違いが話題となることもあり、本セミナーでは異分野交流に留まらず異文化交流が促進されたとも言えるであろう。

セミナー以外の時間でも、お昼休憩やセミナー終了後の時間を有効に利用し、USF の院生との交流の場や、大学構内を見学する機会を積極的に作っていただいた。一日目のセミナー終了後は、おそらく部外者は一切立ち入ることのできない Department of neurosurgery and brain repair の研究所や実験室の内部を金子祐治先生に案内して頂いた。厳重な管理のもとで保管された薬品や見慣れない実験器具、そしてまさに今研究途中の細胞などを詳しい解説付きで見せて頂いた。最先端の研究成果が生まれるその場を間近で見ることができ、自分が今その場にいることに、何かとても不思議な感覚を覚えた。また二日目のセミナー終了後には、Happy Holiday Party にも特別に参加させていただいた。自身の作詞作曲で院生生活を歌うパフォーマンスやクイズ大会、これぞアメリカといった大量のパーティー料理があり、日本の院生生活とは異なる、USF の院生生活の一部を体験させてもらった。御陰で研究関連のみならず、様々な面においての意見交換ができ、大変有意義な滞在となった。清水博士のご厚意により、本セミナー発表者の全員のメールアドレスを参加者に伝えていただいた。本セミナーが終わっても、更なる議論や意見交換などの学術的交流が続いていくことが期待される。清水先生をはじめ、金子先生、お世話になった院生方には深く感謝申し上げたい。

（玉田圭作、桃生朋子）

On December 2nd and 3rd, the third Keio-South Florida Joint Seminar was held at University of South Florida (USF). Presentation topics in the first day were animal research including sensory motor control, and animal aesthetics. After the first day seminar, we were invited to the Psychology Department Holiday Party. On the second day, topics on human researches including Manga reading, ellipsis construction, literacy acquisition and choice blindness were presented. We even had a chance to visit several USF neuroscience and psychology laboratories. It was a great opportunity for us to communicate with the researchers from various kinds of research areas. (Mikimasa Omori)